

2026.6
夏

広島県 医療勤務環境改善支援センター

News Letter

第15回 医療勤務環境セミナー 開催

令和8年1月29日（2026年）、ホテルメルパルク広島およびオンラインにて「第15回 医療勤務環境セミナー」（主催 広島県、共催 広島労働局）を開催し、県内の医療機関など17施設から31名以上うち6名は会場にて参加されました。

まず、広島県健康福祉局医療介護基盤課 加川伸課長より冒頭あいさつを行いました。

次に、広島県医療勤務環境改善支援センターの医業経営アドバイザーより、勤務環境チェックやトーキングエイドなどを用いた支援内容や最近の好事例（2026年春号参照）について紹介しました。

特別講演では、和歌山ろうさい病院 院長 南條輝志男先生より「医師の働き方改革とチーム医療の在り方」と題して、院長就任後の病院運営やコロナ禍、医師の働き方改革などにチームで対応されていた内容や考え方などを中心にご講演がありました。（以下、参照）



ご講演される南條輝志男先生

『大災害に強い病院』目指す

～ 職員が満足していなければ、患者に満足を提供できない ～

当院は2009年に新築移転しており、私が院長に就任した2011年当時は移転という大きな目標を達成したためか、目標を失っているように感じられました。また、移転の際に大きくダウンサイジングしたため、患者や職員のアメニティが低下したという問題もありました。

そこでまずみんなで共有できる新しい目標を掲げることとし、東日本大震災の直後ということもあって『大災害に強い病院』を目指すことにしました。2011年にはDMAT指定病院、2012年には災害拠点病院に指定され、国・県の補助金を受けて災害医療の3本柱となる災害医療研修棟など3施設を竣工しました（図1）。災害医療研修棟にはヘリポートやスキルスラボに加え、医局や職員食堂もつくり、アメニティや職員満足度がかなり改善しました。

職員が満足していなければ患者に満足を提供できないと考えており、職員は設備の規模などではなく『満足度』で戦っていくことを共有しています。結果、全国労災病院内の調査にて、職員満足度は2011年以降毎年全国上位になり、2021年には入院患者満足度においても全国1位になりました。

災害医療研修棟
(2015年7月竣工)

災害医療対応棟
(2022年3月竣工)

地下水汲み上げ浄化センター
(2024年3月竣工)



備蓄庫・DMAT室・
スキルスラボヘリポート
医局・会議室・職員食堂

自家発電量と備蓄量の増強
負傷者収容人数の倍増
感染症(パンデミック)対応施設
会議室

災害時給水能力
約10倍増(飲用可)

図1 2009年移転後の新たな目標
大災害に強い病院造りとアメニティの改善

『コロナから逃げない病院』を目指す ～ 職員、患者の安全を守りながら ～

2020年のコロナ禍では『コロナから逃げない病院』を目指す方針を示し、全病棟にコロナ病床設置など、スタッフも一致協力してくれました。コロナ対応では職員や患者の安全を守るため、PCR検査による感染者の見える化が不可欠です。そこで県内初の院内PCR検査を可能にしました。1日最大240件、約90分で結果がわかるようにし、3年で4万件超の検査を実施しました。この間、担当検査技師は4名で増員なしで対応し、安心だけでなく病院経営にも大きく貢献しました（図2）。

また、妊婦が安心できるよう里帰り分娩の受け入れを発信、新型コロナウイルス感染者の室内リハビリも推進、感染防止の研修依頼には感染管理認定看護師が対応しました。全国的に中止された修学旅行も運転手やガイドなど旅行業者への研修指導やPCR検査を提供し、和歌山県では8割の学校での修学旅行実施に貢献しました。

コロナ禍にもチームで対応したのです。

患者・医療人の安心・安全のためPCR検査が不可欠

感染者の見える化

当初は保健所（行政）へ検体を提出
結果が出るまで6時間～数日間



県内初：院内でPCR検査を可能に

結果報告まで約90分	2020年：3,078件
1日最大240件検査可能	2021年：15,221件
4機種稼働で24時間、365日体制	2022年：23,156件
	合計：41,455件

図2 新型コロナウイルスのPCR検査

チーム力で、働き方改革も対応

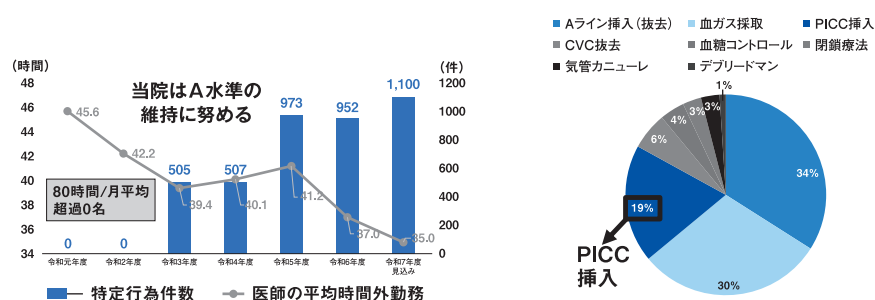
チーム作りは母校バスケット部のコーチ13年間で培いました。県内で唯一体育館のない、進学校の中学校をコーチ3年目に、個性を褒めて伸ばし優勝させました。チーム作りのコツは、逆境を発想の転換で活用、和而不同（お互いの個性を尊重し全員参加）の精神、共通の目標設定です。

医師の働き方改革にもチームで対応しています。看護師へのタスクシフトでは、認定看護師、特定行為看護師に加え院内認定看護師等、まずは人財※育成に注力しました。特定行為の件数に伴って医師の平均時間外勤務は減少しています（図3）。また、患者や老健施設等にも診療時間内の受診を協力依頼し、加えて夜間院長名で仮入院（通称、南條入院）させ翌朝調整チームが診療科を決定する新体制を構築することにより、休日・夜間帯の救急件数は横ばい

のまま、救急お断り率は50%超から約5%まで激減させました。

人財※確保のため看護学生等の教育にも注力し、高額医療機器もやる気ができるよう投資（闘志的投資）をするなど、自分にできること・自分にしかできないことを考え、日々チーム力アップを目指しています。

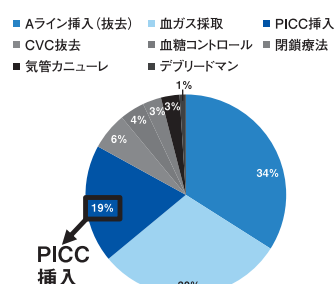
医師の平均時間外勤務と特定行為件数の推移



特定行為件数の増加に伴い、医師の平均時間外勤務が減少している

図3 特定行為による医師の時間外勤務短縮の効果

主な特定行為内容



※当院ではスタッフは財産であるとの考えから人財→人財と表現しています。

お問い合わせ

広島県 医療勤務環境改善支援センター 広島県健康福祉局医療政策課内

TEL:082-513-3056

受付時間：(平日)9時～17時
(土日祝日、年末年始を除く)